

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2	学年・コース	1年 全
教科書	教育出版社「tutti I」			担当者	佃 馨		
概要・ねらい	音楽の基礎を学び、読譜力を身につけ、よりの確な音楽表現の楽しさを学ぶ。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	5 20 22 22 12	● 歌唱 校歌・応援歌 「この道」「浜辺の歌」 ● 器楽・アルトリコーダー リコーダーエチュードを使用した基礎と応用 コロナ対応 ミニキーボード ● 理論・リズムと聴音 ● 演奏の形態と鑑賞	校歌と応援歌を2声で歌い、それぞれのパートの音程を正確に歌えているか、又正しい発声でそのハーモニーを感じることができているか。 日本歌曲の歌詞を理解し、その情景に合った表現で歌唱できているか。 リコーダーの基本的な奏法が身につけられる様に努力していたか。 キーボードの基本的な指の動きが理解できているか 拍子とリズムについて理解できたか マーチングについて			
	二学期	11 11 22 22 22 22	● 歌唱 少年時代 カロミオベン(アリエッタ) ● 器楽(合奏) アルトリコーダー リコーダーブックを使用した基礎と応用 コロナ対応 ミニキーボード 上記に準ずる ● 理論 調号と主音・コードについて ● 鑑賞 演奏の形態と鑑賞	合唱を通じて、お互いの声のバランスや音程に注意して歌うことができたか。 イタリア語の歌詞での斉唱を通じ、イタリア歌曲を表現する 二つのメロディーに注意し、互いにアンサンブルを楽しむことができたか。(2曲から3曲) 調号と主音の関係について理解することができたか オペラとミュージカルについて			
	三学期	18 18	● 歌唱 椰子の実 ● 器楽 アルトリコーダー コロナ対応 キーボード ● 鑑賞 音楽とその背景	歌詞を理解し、情景に適した表現ができたか 総合的な技術を使い、工夫して表現することができたか。 モーツァルト オペラ チャイコフスキー パレエ 以上の鑑賞			
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業は教科書とプリントを使用して行う。自己の取り組みを自身で評価し、次の実技項目に生かす。 ● 器楽の授業においては、積極的な取り組みが必要である。 ● 鑑賞においては、事前の調べが必要である。 							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫		創造的な表現の技能		鑑賞の能力	
評価の観点の趣旨	音楽の基礎を学び、演奏及び歌唱における読譜力を高め、理解し表現する喜びを知る。	譜面を読み取り、音として表現する為に必要な教材を判断し、自ら応用する姿勢を養う様に努力する。		発声・音色・音程に留意し、楽曲を正確に表現すると共に、強弱やテンポなどの個人的な表現を工夫し発表する。		多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。	
評価方法	授業の出欠状況 取り組む姿勢 提出物等 実技試験	授業の出欠状況 取り組む姿勢 提出物等 実技試験		授業の出欠状況 取り組む姿勢 提出物等 実技試験		取り組む姿勢 学習プリントの提出	

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2	学年・コース	1年 全
教科書	「新版・高校生の美術」日本文教出版			担当者	中村 保・岡田 敬子		
概要・ねらい	生涯にわたり芸術を愛好する心情と感性を高め、表現と鑑賞を通じ、絵画・彫刻・デザイン各領域の諸能力を養成する。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	2 4 4 16	デザイン基礎(鉛筆) デザイン基礎(絵の具による着彩) レタリング基礎 実習を通した文字デザインの成り立ちについて 伝達のデザイン(選挙ポスター制作) 視覚伝達によるデザイン実習	明暗のグラデーションを鉛筆でいかに表現できたか。 有無、明暗のグラデーションをポスターカラーで表現する。 レタリングの成り立ちと基礎表現(永字)の表現。 テーマを設け狙いに沿った内容を考える。 レイアウト、レタリング、キャッチコピー等の表現。 テーマ(選挙ポスター)について考える。 いかに的確に内容を人に伝えるか。文字と絵の関係、色彩の効果を考える。			
	二学期	6 2 12	立体作品(ねんど造形) 絵の具による着彩 木版画カレンダー(次年度のデザイン)	いかに迫力のある動きを表現できたか。 全体の色彩バランスを考え、効果的な彩色ができたか。 アイデアスケッチ。テーマに沿った内容を考えることができる。 下描きをトレースし反転させた状態で版木に写す。 彫刻刀の使い方。線による凸面と凹面の違いを理解できる。 ローラーでインクをのせ、何枚か摺る。 カレンダーの機能とデザインを表現し工夫することできたか。			
	三学期	16	貼り絵(絵画作品の模写)	有名な絵画作品を模写し、貼り絵を作成する。 教科書の中から作品を選択する。 作品に応じたサイズにマス目を取り、形を正確に写す。 ケント紙に写した後、和紙を細かくちぎりながら、のりで貼り付けていく。 提出は作品を選んだ理由と画家のプロフィールも合わせてレポートし、作品に添えて提出する。 作品の構成や色彩の素晴らしさを理解できたか。 和紙の持つ素朴な色や味わいを理解できたか。			
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> 自分の持ち物に必ず記名し保管する。 授業時に使用した自分の絵の具、学校の道具に関して、きちんと清掃・整頓を行うこと。 実技作品は提出期限を守り、必ず提出すること。 							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫		創造的な表現の技能		鑑賞理解	
評価の観点の趣旨	美術を愛好し、表現の主題や形式に幅広く関心を示している。	感性を働かせて美術のよさや美しさを感じとっている。		創造的な表現をするための工夫。 用具の使い方の理解度。		作品の持つ魅力を理解する。 歴史的な意味合いも加味し理解する。	
評価方法	1. 授業への取り組む姿勢 2. 実技作品の成績 3. 出席状況	1. 実技作品の完成度 2. 授業への取り組み		1. 実技作品の完成度 2. 授業への取り組む姿勢		1. 実技作品の完成度 2. 授業への取り組む姿勢	

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2	学年・コース	1年 全
教科書	「書道 I」光村図書			担当者	北田 朋子		
概要・ねらい	書写教育と芸術書道の違いの根幹は、線を引くことにある。お習字の世界ではなく芸術教科としての取り組みを行う。日常に使われる漢字、仮名、カタカナ文字の歴史を知り、鑑賞することと実作を通して日本古来の伝統に親しみ芸術を通して豊かな感受性と表現力を養うことを目的とする。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	2 2 2 6 2 2 2 2	用具、用材の配布と使用法の説明 自由に線をひく 筆の開閉運動 各方向性を持った直線や曲線、回線運動による線の引き方を知る 篆書/甲骨文字による表現 篆書/金文による表現 篆書 隷書/章草・草隷の書	用具の使い方を理解できたか。 色墨と筆をつかって自由に描けたか。 いかに筆を開かせ、閉じさせるかを理解できたか。 側筆にならず、直筆による表現と線のリズムを理解することができたか。 線による構成をすることができたか。 線による構成と紙面分割をすることができたか。 篆刻に向け、自分の名の一字を辞書で調べ書くことができたか。 筆の開閉を利用した表現ができたか。			
	二学期	2 2 2 2 10 2	隷書/漢隷による表現 草書 行書 楷書 篆刻、朱文印と白文印の作成 自由制作と押印	波磔の表現ができるか。 草書を知り、書くことができたか。 行書を知り、自分の姓名を行書で書くことができたか。 書道に関する辞典の使い方をすることができたか。 北魏、隋、唐時代の楷書を書きわけることができたか。 方寸の世界の文字造形と布字、石を切ることで文字を生み出すことができたか。 自分で考え創作した作品に、押印して完成させることができたか。			
	三学期	6 4	仮名の書 自由制作と押印	仮名の歴史を知り、平仮名を書くことができたか。 自分で考え創作した作品に、押印して完成させ、相互の作品鑑賞をすることができたか。			
履修上の注意							
<p>硯、下敷き、文鎮は共有で硯は洗って終る。紙は教室に供えてあるので自由に使用させるが、無駄遣いについては厳しく指導する。毎時間作品は提出させ、A/B/Cの3段階評価をして次の時間に返却する。</p> <p>年間を通して授業時間数の格差が出た場合は、小楷の実用文字の訓練で調整し、千字文や般若心経等を教材として使用する。</p>							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	芸術的な感受		創造的な表現と技術		鑑賞と理解の能力	
評価の観点の趣旨	興味を持って意欲的に取り組み、自ら学習すること。	感受性豊かにテーマを持って発表、表現する。		用具、用材の特性を知り工夫した表現ができる。		日本や中国の文化を知り、そこに生まれた書を理解し、他の作品を鑑賞する。	
評価方法	授業へいかに取り組むか。作品の提出状況。	作品の完成度。各自のテーマとの相合性。		作品の完成度。どのように工夫して表現しようとしたか。		作品の完成度。鑑賞した作品をどのような言葉で表現できたか。	